

アマダイ通信NO. 98

(Tile fish network letter)

2013年秋、富士雪化粧

知人・友人各位

北京の汚染大気が韓国にも流れ、ソウルの市民がマスク生活をしているニュース。大気と同じように経済もグローバル化、一つに収束するようにみえますが、それぞれの国、都市の上空の空気の組成は異なります。アメリカの跡を追って「市場化」が進むように見える日本ですが、アメリカと違って、国民連帯の証、国民皆保険制度は維持したいものです。

◎小泉元首相も原発廃止を提言

五輪の招致で、福島原発は国がコントロールすると安倍首相が大見得を切る。国費を投入して国が直接処理に当たるということは、東電を国有化、水俣病を引き起こしたチッソのように、廃炉を含め原発事故処理に当たる会社と電力事業を続ける会社に分け、事故処理会社には国費を投入して福島第一原発を処理するしかない、ということか。電力事業が赤字になるのか？黒字になるのか？数字を気にしながら、黒字になる範囲で事故処理を図るというのは不可能だ。東電に事故処理能力がないのは明らかで、東電国有化自体は国民も納得するだろうが、条件が問題だ。

核燃料を上手く取り出せばいいが、どこにどんな形であるか解らないものをどうやって取り出すか？取り出せたとして、どこにどうやって保管するか？最悪1号から3号の原子炉は石棺で覆うしかないとして、必要なコストと筋道を国内外にはっきりさせ、納得して貰えるか？その上で福島第一の事故の発生を必然とした、国のエネルギー政策、九電力体制の有りがたう様子が問われ、発送電分離等の電力自由化も進むのでしょうか。原発を廃止しても跡始末はしなければなりません。安全に処理することで、廃炉の技術とノウハウを確立し、世界に役立てなくてはなりません。

最近小泉元首相まで原発の即時廃止を訴えています。経済界の主流は原発の停止による火力発電の原燃料代の高騰と貿易収支の悪化を理由に原発の運転再開を主張していますが、小泉元首相も主張するように、福島第一原発で明らかになった事故処理コストも原価に組み込み、更に使用済み核燃料の処理、廃炉コスト等も原発の発電原価に入れる必要があります。それでようやく、原発と火発、再生可能エネルギーの正確なコスト比較が可能になります。事故処理コスト、使用済み核燃料の処理と廃炉コスト等を発電コストに加えずに原子力発電の安さを主張するのは、後の世代にツケを先送りすることです。

当面は高効率な石炭火力を含め、火力発電を主とし、化石燃料の枯渇に備え再生可能エネルギーの技術開発・コストダウンに力を注ぐ必要があります。数百年、数千年後？人間が地球上の化石燃料を採り尽くした時、頼れるのは再生可能エネルギー、つまるところ、風力、バイオマスを含め、地球に降り注ぐ太陽エネルギーをどう利用するか？地球が太陽に近づき過ぎ、人間が居住できなくなるまでの万年、億年のスパンでの、エネルギー問題を解く鍵を早く手に入れる必要があります。地球が火の球となる前に、末裔が次なる人間居住環境、ニューフロンティアを求めて宇宙に旅発つためにも！

◎警察で暴行されたことがありますか？

能代高校東京同窓会で、先輩は何度も警察に捕まったことがありますよね？警察で暴行されたことがありますか？と、芸能プロダクションを経営する後輩が聞く。恥ずかしながら、勇猛果敢な突進力のせいかな？逃げ足が遅いせいかな？機を見るに敏でないからか？7回も警察に捕まり、一時駒場のレコードホルダーだった。その後8回捕まった猛者がいると聞く。だが警察の留置場や取調室で暴行を受けたこともなく、目撃したこともない。西部警察などのテレビドラマでは、刑事が容疑者に殴る蹴るの暴行を欲しいままにする。何故警察は「あんなことはしていない」、「警察のイメージを損なう」と抗議しないのか、不思議に思っていた。

留置場は雑居房で、窃盗犯や痴漢もいれば、詐欺や横領などの知能犯、暴行や傷害などの粗暴犯、ヤクザも一緒。自由を拘束され、「臭い飯」を食って反省する者もいれば、次回はもっと上手くやろうと、経験交流に勤しむ者もいる。同じ囚われの身でも痴漢が一番蔑まれ、次にこそ泥や粗暴犯が馬鹿にされ、詐欺や横領などの知能犯は一目おかれる。先輩のような学生運動の活動家などの「政治犯」は、「一身の利益を顧みず」ということで尊敬される。一般社会の価値基準がここでも反映される。

後輩は芸能プロダクション経営という仕事柄、極道の世界と付き合いがあるからか？ヤクザやこそ泥などは、警察署で殴る蹴るの暴行を受けるという。そこで先輩に暴行されたことないですか？と聞く。顧問先の社長と寮の後輩の顧問弁護士が、一緒に東京に来ているからと、銀座で食事する。弁護士会の民暴対策委員も勤める弁護士は、ヤクザに対する警察による殴る蹴るは日常茶飯だ、それも顔や手足ではなく、腹を殴ったり、蹴ったりするので分かりにくい。ヤクザも暴行されるのはみっともないので、隠すという。警察はメディアに抗議しない訳だ。

◎スポーツの秋、「老人」も体を鍛えよう！

体育の日に、運動に励む年寄りが増え、老人の体力が向上しているとの報道。年寄りも体を鍛えピンピンコロリ。医療費削減に協力を！元気な年寄りは働いて、少子高齢化による労働力不足を緩和し、経済を活性化しよう！ということか？もっとも、長生きすると年金支給額も膨らむ訳だから、支給年齢を更に下げる必要も出てくるだろう。

老人と言われてもピンとこないが、65歳以上は無料ということで、体育の日の3連休初日、朝から月島の区営プールで、25m プールを21往復、1050m 泳ぐ。運動後30分以内に牛乳を飲むと筋肉に変わるというテレビ神話を信じて、セブンイレブンで一気に500ml 飲むが、トイレに何度も行き、137円を水に流してしまう。もっともこれで少し痩せられたか？泳ぐ前が72.2キロで、泳いだ後は71.9キロ。連休最終日の朝も月島のプールへ。近くのスーパー、マルエツで500ml は避け200ml の、骨太牛乳105円ではなく、乳たんぱく質アップのスポーツミルク108円を買う。ワンクールが1時間で、休憩が5分なので、正味50分弱で1200mと150m距離を伸ばす。お腹は大丈夫そうなので、筋肉がついたか？帰りに中央区の月島図書館に寄るが休みで、自転車で隣の江戸川区の豊洲図書館へ。エコノミストを手にするが、眠気に勝てず早帰り。昼飯前に昼寝する。水圧を振り切って前進するのはエネルギーを使うのだ。子供の頃の夏休み、午前中、日本海で素潜りして帰ると、夕方までの午後の素潜りの前に、お袋に必ず昼寝させられたことを思い出す。

連休中日はホームコースの小川カントリーで寮の仲間とゴルフ。前半パーを2つとり48、後半も最後のパー3のショートホールを残し46、ボギーの4、ダブルボギーの5でも百を切れると勇むが、グリーン手前のバンカーに第一打を落とし、4つ叩いても砂場を抜けられず。グリーンに直接乗せるのを諦め横に出し、それからグリーンに。結局8つの大叩きで54、目標の百台突破はならず。久しぶり砂場に苦しめられ、ゴルフの難しさを味わう。カートには乗らず、いつもの様に全コース気持ち良く歩き通す。

◎鏡沼の真実

駒場の中国語クラス（Eクラス）同級生の、前日本生協連専務理事の矢野和博君に、渋谷に建築中の生協連のビルの営業でお世話になる。在学中から生協運動にのめりこみ、駒場で大学を中途退学、東大生協から始まって、日本の生活協同組合全体の舵取りをするまでになった矢野君。いつまでも組織にしがみつくと嫌だと、この6月の総会で無給の顧問に退き暇になったということで、久しぶり盃を交わす。

中国語クラスでは毎年夏休みに那須の奥、秘湯の湯治場三斗小屋温泉で、中国語の合宿をした。お茶の水女子大や東京女子大の中国語クラスの学生も参加、秋の駒場祭の中国語劇の準備もする。真夏でも震えるような寒さの那須の山奥にこのこついで行ったが、音痴で中国語の四声が全く分からない。中国語の勉強にはついていけず、別行動。専ら温泉に浸かっては酒を飲み、読書と山登り。

山の稜線から見下ろすと、遥か下に小さな綺麗な沼がある。矢野君と降りて行く。上からは碧く見えた鏡沼だが、綺麗に透き通り、真夏というのに大きなオタマジャクシが泳ぐ。海の子もその余りの美しさに泳いでみたくなる。海水パンツの用意などない。生れたままの姿で、矢野君と二人、水の冷たさなど気にせず、オタマジャクシになる。

酒も進み矢野君に鏡沼の話をする、二人だけで山へ行ったのではなく、合宿の行事の一つで、皆で登ったのだという。誰か泳ぐ奴はいないか？という先生の声に、二人が手を挙げて泳いだのだという。矢野君は途中で足がつって引き返し、だけが向こう岸まで往復したという。衆人監視の下で、素ッポンポンで泳いだとは！

◎瑞穂の国の水不足

今年は夏にかけ台風が少なく、利根川水系のダムの貯水量が満タン時の4割近くまで下がり、11年振りに10%の給水制限が行われた。10年一昔というから、随分昔のことなんだと思う人もいるかも知れないが、この「水穂の国」の首都で、10年に一回水飢饉が到来し、給水制限が行われるのは不思議だ。関東平野を囲む山々に積もった雪は自然の貯水地となり、初夏の梅雨と夏から秋にかけて頻発する台風も大量の雨を降らせる。芽吹きを促す春の、草木の酷暑の疲れを癒す秋の長雨もある。北九州と四国の瀬戸内を除いて、降水に恵まれ、渇水に対する日本人の危機意識は薄い。関東甲信越の豊富な降雪・降雨量を擁しながら、何故東京は10年毎に渇水の危機に見舞われるのか？

一つは毎年降る雨と雪のフローに頼り過ぎだからだ。列島を囲む四海から立ち上った水蒸気は雲となって流れ、脊嶺山脈に衝突、雨と雪に姿を変え列島の大地に降り注ぐ。その雨と雪を河川上流のダム群で貯水、年間を通して使う。だが年により、季節によって降水量の多寡があり、ダムの貯水能力を越えた降水があっても貯水できず、使いきりとなる。

従って降水量の少ない年は渇水の危機に直面する。もうひとつは水利権の再調整が出来ていないこと。利根川や多摩川の水は飲用だけでなく農業用水にも使われる。減反や耕作放棄、商業施設や住宅などへの転用で農地は減少し、使用水量も減っている。本来なら農業用水の量を減らし、飲用の使用水量を増やすべきだが、この調整が出来ていない。

大地に降った雨や雪は川となって海に注ぐだけでなく、地面に沁み込み、地下水となって、地下にダムを造る。地上のダムがフローの用水とすれば、地下水はストックの、人間のための用水だ。長い年月をかけて浸み込み浄化される。地下深く貯溜された地下水は季節や年毎の降水量に左右されることはなく、コンスタントに利用できる。過去、高度経済成長時代に工業用水として地下水を汲み上げ過ぎ、東京の下町などで地盤沈下を招いた。しかし、工場も地方に移転、次いで海外に移転することで地盤沈下は止まり、更に地下水水位が上昇、東京駅や上野駅が地下水で持ち上げられるなどの困った現象が起きている。

●が提案して東大病院の古井戸を改修、電源開発が膜ろ過の設備を設置、水源を二重化して病院の事業継続性を高め、併せて年間3千万円ほど水道料金を節約している。その古井戸の水位はかつて地下60mだったが現在は30m。又、東大図書館の前の楠の巨木2本とその間の噴水が一時的に？撤去され、地下書庫を建設予定だが、ここの地下水位は10mで、それより深く掘るので難工事となり、ゼネコンの設計・施工となるという。この豊富な地下水を有効利用することで、「渇水」は解消できる、少なくとも渇水や震災の被害を緩和できる。因みに、ロックフェラー財閥の寄付で関東大震災後建設された東大図書館だが、最近まで管理費も寄付されていたという。

◎溶解するシベリア・・・一年振り海外へ

がん保険で頂いた軍資金一千万円も10年で底を尽き！？9月の3連休に一年振りの海外、シベリアへ。成田発が21日2時半でウラジオストックに一泊、シベリア鉄道に車中泊でハバロフスクへ、そこから成田着が23日2時、2泊3日、ジャスト48時間の弾丸ツアー。1人20万円、35人のバス2台、70人のツアー。よく集まった、クラブツーリズムは笑いが止まらない！？

朝早いハバロフスクでは先ず中央市場へ。庶民の生活が良く分かる。豚一頭丸ごと手斧で解体され、ブロックに積み重ねられ、薄毛の白い頭が救いを求めるかのようにこちらを見上げる。魚は鮭が多い。シシャモのような小魚も。茸や野菜の漬物、各種惣菜も豊富。肉、魚と夏の野菜は地場の物だという。キャベツ、トマト、玉ねぎ、ピーマンと野菜も揃うが、サンプルを割って見せているジャガイモは小振り、泥のついたまま置かれた人参は可哀想なくらい小さい。リンゴや梨などの果物も小さい。中国ではどこでも、いつでもあるスイカもない。冬の野菜や洋装品、日用雑貨は中国東北地方から中国人が運ぶ。洋品や日用雑貨は真冬でも屋外のマーケットで中国人が売り、中国語が飛び交う。ここにロシアのプーチン大統領が極東開発を叫び、急ぐ理由があるのか？

中心部の狭いアパートが2万ルーブル(6万円)もし、給料も低いので、若者は大学を卒業するとサンクトペテルブルグなどへ出て行ってしまふ。ロシアの方が稼ぎがいいので中国人が入って来ると、市場で買った好物の野菜と春雨のサラダ入りのビニール袋を手に、若くてスタイル抜群、綺麗で賢い女性ガイドは嘆く。

ソ連崩壊後人口減少が続き、その穴をチャイニーズが埋めるのか？エリツインを引継ぎ、

取り敢えず「核大国」の秩序を回復したプーチンだが、資源依存から脱却して開発独裁を成功させ、ロシア経済を建て直し、溶解する極東を自立・発展させることができるのか？北方領土の四島をどうこうすると言うより、中国と国境を接するシベリアの発展をどう計るか？がプーチンにとっては何倍も、何十倍も重要だろう。四島を返せと声高にただ叫ぶのではなく、極東ロシア全体から考える、そこに北方領土問題解決の鍵はないか？

植樹20周年黄土高原紀行（2012. 8. 19～25）（4・完）

中国の首都北京の天安門で車での自爆事件が起き、事件発生十時間後には犯人を割り出し、共犯者 5 人も逮捕との発表。こんなに早く犯人を割り出し、身柄を拘束するというのは、当局が事前に情報をキャッチしながら犯行を防げなかったか、わざと泳がせていたのか？共犯者 5 人の逮捕は全くのでっち上げもあり得る。いずれにしろウイグル族による分離・独立運動が、首都北京の中枢深くにまで及んだ。当局が弾圧を強めれば強めるだけ、運動は地下に潜り、先鋭化するだろう。民族差別と所得格差の拡大が続く限り、社会の安定は望めない。4回に分けて載せた、北京から西に 300 キロ、山西省大同市の黄土高原からのレポートで、ディープチャイナの現実を多少は感じて頂けたでしょうか？

⑨熱烈歓迎！日中関係緊迫の中で

大同における緑化協力のスタートから、満 20 年。再開発で突然取り壊され移転、再築した新しい拠点、緑の地球環境センターで、大同滞在最終日の 8 月 24 日に記念イベント。日本側出席者は、我々緑の地球ネットワークのスタディツアー参加者 24 名と、大阪市 RR 厚生会の参加者 5 名。中国側は、大同市の幹部、大同市総工会に属する労働者、地元の農民と、小学生など 200 名余。日本側参加者を乗せたバスが到着すると、「歓迎！歓迎！熱烈歓迎！」と人波がゆれる。「鑼鼓」と「秧歌」を楽しむサークルの女性集団。前者は銅鑼と太鼓を勇壮に演奏、後者は扇やりボンを操って、華麗に踊る。この地方の伝統芸能。日本からの参加者の中には、涙ぐむ人も。中国では、反日デモが吹き荒れているという報道に、ずっと不安に思っていたそう。この歓迎との落差に、揺さぶられちゃったのでしょうか。

管理棟の門前で、トウヒの記念植樹をした後、大同市総工会の柴京雲副主席の総合司会で、記念式典。最初に挨拶に立ったのは、大同市総工会の張志偉主席（大同市人民代表大会副主任を兼務）。20 年間に日本側から 3,400 万元以上の資金協力を受け、5,500ha 以上、2,000 万本以上の植林を実施、範囲は、9 つの区と県に及び、日本から迎えたボランティアは、3,000 人以上。総工会や、共産主義青年団の中央の幹部、日本の大使、公使、そして著名人など多数の視察があったと、具体的な数字をあげ詳細に報告。

日本側からは、緑の地球ネットワークの前中久行代表が、冒頭は中国語で、その後は日本語で挨拶。「20 年間、協力を継続して、大きな成果をあげ、成功をおさめたのは、みなさんの努力のたまもの。運がよければあと 30 年は生きて、樹木の成長を見守りたい」とユーモアたっぷりに話し、喝采をあげる。続いてサントリー労働組合の神吉久永委員長、イオンリテールワーカーズユニオンの本間真人さんが挨拶。二人の参加で式典も、いっそう意義深いものになる。その後高見事務局長がたった二言、「長い間、ありがとうございます。今後とも、宜しくお願い致します」と話す。

共産党大同市委員会の柴樹彬副書記がマイクをとり、「緑の地球ネットワークの協力が20年間継続し、各地に森林を再生させ、成果をあげていることに、大同市政府と人民は深く感謝している」と述べ、大同市労働コンクール委員会から緑色地球ネットワーク大同事務所に、「集体一等功」の賞状と記念の楯が贈られ、柴副書記から武春珍所長に手渡される。ほんとに彼女ら、彼らはよく頑張ってきたと、高見君は自分がほめられるのよりずっと嬉しかったとのこと。

式典のあと、労働者文工隊によるアトラクション。歌あり、踊りありの大変派手な演出が続く。日本側参加者はびっくり、皆プロだと思って「費用が凄くかかるでしょう？」と、何人もの人から高見君は聞かれる。それくらい達者な芸だったが、総工会に属する労働者劇団のメンバー。この層の厚みが、中国の特徴。記念イベントは無事終了。日本側参加者からは、大変感動した！という感想が口々に語られる。両国関係が緊張し、一般的に言えば、国民感情も最悪のなかでの開催で、緑色地球ネットワーク大同事務所は随分慎重に準備し、ストレスを感じていたが、ほんとによかった！地元紙『大同日報』が、この記念活動を記事にする。（この項は高見君の「黄土高原だより」による）

⑩毛沢東を一目見ようと長蛇の列

バーベキューパーティーの後、イルミネーションを施され、賑やかな大同駅へ。天津行き、懐かしくも寝苦しい夜汽車。二年ほど前のチベットツアー以来の、軟車（一等⇔硬車、三段）の個室二段ベッド。重いスーツケースを上段まで引き上げ、トイレ垂れ流しの、衛生的とは言えない7時間の闇夜の旅。最終日、7日目の夜が明け、北京郊外の黄村駅着。バスで北京発着長距離列車の始発駅、北京西駅のサウナに直行。シャワーと浴槽で、汗と毛穴に染み込んだ黄砂を洗い流し、すっきり。サウナのレストランで朝食後、市内観光へ。

20年余り前、民主化革命の巨大なうねりを、鄧小平が銃と戦車でねじ伏せた天安門前広場は、今日も人でごった返す。中国革命の指導者毛沢東の遺体を安置する毛沢東記念堂には長蛇の列。「先に豊かになれる者から豊かになる」という、鄧小平の「先富論」に基づく「改革・解放政策」が実施されて以降、外国の資本と技術導入により中国経済は目ざましく発展。今やGDP(国内総生産)は日本を抜き、アメリカに次ぐ世界2位。しかし、中国の人口は日本の十倍、一人頭では日本の十分の一、物価水準が日本の半分だとしても五分の一。日本以上に大金持ちが多く、富が偏在、貧富の格差が激しい。皆平等に貧しかった毛沢東時代を懐かしむ者も多く、毛沢東を一目見ようと、全土から列をなす。尖閣諸島の「国有化」を巡る中国の「官製」デモに乗じ、「自由・民主・人権」を求めるスローガンも叫ばれ、毛沢東の写真も多数掲げられた。政権への不満、批判が高まれば、目を外に転じさせようと躍起になるのが政権にある者の常。振り上げた拳の落とし処はどこになるのか？共産主義を捨てた「共産党」の開発独裁と、国家独占資本主義経済はどこへ行くのか？毛沢東を一目見ようという列は長くなるのか？短くなるのか？

北京観光の定番故宫、清朝の王宮、紫禁城へ。毛沢東に負け台湾に逃げる時、蒋介石が持ち運べる財宝は全て台湾に持ち逃げ、台北の古宮博物館に所狭しと並べられている。北京の古宮は裏抜けの殻と思っていたが、今回初めて宝物館へ。蒋介石が運び切れなかったお宝を鑑賞。混雑する北京空港の、空いているレストランに入ったら韓国の定食屋だ。思い思いに昼食を頼み、財布に残った元を使い切る。酒代も全て込みのツアーだったので、

元も両替せず、これまで何回かの中国ツアーで持ち越して来た元を使い切る。夕方の JAL 便で羽田へ。機内食の和食に頬が緩む。(完・・・読了ありがとう！)

◎敢えて火中の栗を拾う・・・震災・原発事故と郡山市政

東大三鷹クラブ第 111 回定例懇談会のご案内

今回はこの 4 月の選挙で現職を破って、小中学生時代を過ごした故郷、郡山の市長に初当選した品川万里さん(昭和 38 年入寮、磐城高校卒、郵政省 OB)に講師をお願いしました。

「どなたに紹介文を書いていただけますでしょうか？」と尋ねたら、「三菱商事の取締役をしている今野(秀洋、39 年入寮、通産省 OB)がいい」ということで、平賀代表が連絡を取ってくれたのですが、海外出張に出かけるので無理ということでした。やむなく小生が、案内をさせていただきます。特定郵便局長の息子の小生は、名刺の裏に「郵便局長の 4 男として生を受ける」と、品川先輩と同じ「郵政一家」であることを誇示していますが、三鷹クラブの講演会で初めて会った品川先輩に「明治から 4 代続く郵便局長は珍しいんだよ！」と言われて付き合いが始まり、以来色々とお世話になっています。

品川さんは昭和 42 年郵政省入省、東北郵政局長、貯金局長、放送行政局長、郵政審議官の要職を歴任して平成 12 年退官、その後大阪大学客員教授、(株)NTT データ代表取締役副社長、法政大学教授、NPO 法人日本幼児教育振興会理事などを務め、幼少年時代を過ごした故郷への熱い思いから郡山市長選に立候補、二度目の挑戦で、現職市長を破って当選しました。誰もが願いながらも叶わぬ故郷への夢を、実現してしまう行動力は素晴らしいと思います。

趣味/手漉き和紙・レターオープナー収集という品川さんですが、郵政省時代は電々改革プロジェクトにも参画、郵貯改革プロジェクトや放送行政局長として地デジ化プロジェクトも推進しました。少子高齢化、財政難に加え、東北大震災・福島原発事故という未曾有の災厄のもたらす困難の中で、現職ではなく、新人の品川さんに郡山市民は市政のかじ取りを託しました。先の見えない中で混乱する市政を、一枚の和紙を漉くが如くに一つに漉き上げ、官僚時代の数々の行政改革の経験と豊富な知識、広いネットワークを生かし、山積する難題を、レターオープナーで切るが如くに、鮮やかに解決して欲しいという、市民の期待も大きいと思います。

敢えて火中の栗を拾った品川先輩に、ドコモの **iphone** 導入にまで至る電々改革や郵政改革、地デジ移行、何よりも東北大震災・福島原発事故という未曾有の災難の中で、中核都市郡山の直面する困難とその解決の展望を語って頂ければと思います。

因みに品川さんのお父さんは元郡山市助役、実のお姉さんは元郡山市女子大付属高校の先生です。
(昭和 41 年入寮 干場 革治 記)

日時：平成 25 年 11 月 18 日(月) 18 時 30 分～21 時

場所：学士会館本館 301 号室(千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

会費：5000 円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

連絡先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUEN で、講師参加で行います。

◎鯨と留学生

10年くらい前だろうか？JICAのフィリピンでの研修旅行で、NPO法人「緑の地球ネットワーク」のメンバーとしてお世話になって以来の付き合いの、JICAハノイ事務所の長瀬副所長が帰任したので、久しぶり渋谷の鯨屋で歓迎会。

ベトナム出身の同僚ビンさんを、三鷹寮のOBだよということで、長瀬君が同行。東大病院で遺伝子治療の研究をするバングラデシュ出身、寮OBのアサン君も事務所に顔を出したので、同行する。

ベトナムでは海で遭難した漁師を助けてくれる「神様」ということで、鯨は食わず、死んで流れ着いても、丁寧に葬るといのが、鯨食は日本の文化と、元留学生2人に初体験して貰う。これを機会に留学生OBとの輪が広がると嬉しい。

◎パーティーの流儀

昼からの市ヶ谷の私学会館での能代高校東京同窓会の後、夕方は寿司桶持参で寮の留学生歓迎会にと、政治家ではないが、パーティーを梯子。留学生歓迎会は同窓会と違い、開会の辞も、参加者の挨拶も乾杯もない。同窓会の三鷹クラブを代表していつもの様に寿司桶を差し入れたのだが、挨拶の機会もない。何となく始まって、飲み食いとおしゃべりが続き、何となく終わりそうだ。翌日のゴルフもあるので、終わりを待たずに帰る。

翌日曜日、ホームコースの小川カントリーで寮の仲間4人を含め、2組計8人で楽しく歩くゴルフ。心配だった日和も雨模様から曇り、更に青空へ。スコアも49、49と久し振りに100突破。お昼に前日の寮のパーティーを話題にすると、外国ではダラダラ終わるパーティーもあるよと、大蔵省OBで元ケニア大使、国際派の宮村智先輩。

中国の結婚式（披露宴）もだらだらと、自由に食べて自由に終わり、最初はびっくりしたと一人が言えば、韓国の結婚式も通りすがりの人がなんのためらいもなく席に付き、勝手に食べ始め流石に驚いたが、いつの間にか披露宴が始まっているんだ、という仲間も。

◎結びに代えて・・・学増OB会のお知らせ

学内アルバイト団体、東大学力増進会の二回目のOB会が、2年半振りに開催されます。首都圏の中学生を対象に、学習・受験指導の講習会を開催、講師やテキスト作成等、割のいいアルバイトを提供した「学増」。会場に借りた海城高校や城北高校の様に、中学生の知名度が上がったり、学増の仲間が教師に横滑り、進学校で名を上げた高校も。居心地が良過ぎての様に市民社会への復帰が遅れた仲間も。学費や生活費を稼ぎ、学生運動の疲れを癒したり、乗替案内のジョルダンの佐藤君の様に公開会社創業の仲間も。揺籠から人生の次のステージへ羽ばたいて行った仲間達！久し振りに旧交を温めませんか？前回のは猿渡君の靴を履いて帰り、ご迷惑をおかけしました。今回は気をつけたいと思います。

参加される方は、幹事の勝見明君（a-kats@sd6.so-net.ne.jp、tel 03-3624-0922 fax 03-3624-0952、090-2649-7688、作家、プレジデントなどに寄稿、著書多数）迄。

◇11月30日（土）午後5時30分～午後7時30分

◇「京個室 辻が花」（台東区上野 1-20-11 鈴乃屋ビル 4F 上野黒門 しのばず屋別邸内、03-3834-6820 ※「学増OB会」で予約）

◇会費 6,500円（予定）、2次会も別途予定。（再見！）